令和８年度　全国学力・学習状況調査

自己採点結果を踏まえた分析および授業改善のポイント

学習部

□北斗市の平均正答率との比較

	大野小	北斗市（差）	全道（差）
国語	５７％	５８％（－１）	６０％（－３）
算数	５２％	５０％（＋２）	５４％（－２）

・問題数にすると、全道との差は国語－０．３問、算数－０．３問です。

◎全道より定着率の高い問題　　※問題と照らし合わせて確認してください。

【国語】

問題番号	出題の趣旨	正答率	＊学指における内容　・これまでの授業実践の成果
２ 一	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	63.4% 全道 55.9 全国 57.9	＊５・６年　Ｂ書くこと　イ ・事実と感想、意見とを区別したり、文章全体の構成や展開を考えたりすることに重点を置いた授業実践の成果が出たと見られる。
３一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	90.2% 全道 75.1 全国 76.7	＊５・６年(1)言葉の特徴や使い方に関する事項カ ・文章全体の構成や展開を捉える力において、他校より高い成果が確認された。
３三 （１）	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	63.4% 全道 53.8 全国 55.5	＊５・６年　Ｃ読むこと　ウ ・資料を読み取り、問いに答える力が身に付いている。

【算数】

問題番号	出題の趣旨	正答率	＊学指における内容　・これまでの授業実践の成果
２ （４）	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	38.1% 全道 30.4 全国 34.2	＊４年　Ａ数と計算（４）小数の仕組みとその計算 ＊５年　Ｃ変化と関係（３）割合 ・テープ図を見て基準量の１．５倍がどれにあたるかを読み取る力が身に付いている。
４ （４）	帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	78.6% 全道 73.8 全国 74.9	＊５年　Ｄデータの活用（１）円グラフや帯グラフ ・帯グラフを見て、対象となるものの割合がどれくらいにあたるかを読み取る力が身に付いている。

▲全道より定着率の低い問題

【国語】

問題番号	出題の趣旨	正答率	＊学指における内容　・分析
１二 （３）	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	48.8% 全道 63.8 全国 65.2	＊５・６年　言葉の特徴や使い方に関する事項ク ・比喩の表現方法に慣れていないと考えられる。 ・物語や説明文教材の単元末「言葉」「言葉をふやそう」を充実させることで、さまざまな表現に慣れ親しませることができると考えられる。
２三 ア・イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を分の中で正しく使うことができるかどうかをみる。 ア 短い　イ 不思議	73.2% 全道 77.9 全国 80.0 36.6% 全道 46.7 全国 45.2	＊５・６年　言葉の特徴や使い方に関する事項エ ・漢字を正しく書くことができない。 ・漢字だけでなく、送り仮名を正しく書けるかどうかも課題と見られる。
２四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	26.8% 全道 30.6 全国 33.5	＊５・６年　Ｂ書くこと ・無解答が 4.9%、条件を満たさず記述した解答が 68.2%に及んだ。
３三 （２）	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	70.7% 全道 76.3 全国 76.4	＊５・６年　Ｂ書くこと ・条件を満たさず記述した解答が 7.3%、無解答は 19.5%に及んだ。 ・複数の条件を与えて書く活動を継続して取り入れるのはどうか。

【国語の授業改善ポイント】 ※②は昨年度から継続しています。

① 語彙を増やす（読書活動の推進・読書マラソンなどの活用、物語等における表現方法の慣れ親しみ）

② 書く活動の充実（スモールステップ、個別最適な学びの充実、推敲の仕方や機会の保障）

③ 漢字の読み書き定着（反復練習、おおひタイム、日常的に漢字を使って文を書く）

【算数】

問題番号	出題の趣旨	正答率	＊学指における内容　・分析
1 （1）	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	47.6% 全道 66.3 全国 72.7	＊５年　Ｂ図形（４）立体図形の体積 ・立方体の体積の計算による求め方を理解できていないのではないか。 ８×８（21.4%）８×３（19%）
2 （2）	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる	42.9% 全道 47.5 全国 53.1	＊５年　Ｃ変化と関係（３）割合 ・百分率で表された割合を小数に直せずに計算している。 ・割合と比較量から、基準量を正しく求める式を書けない。（割合の第３用法）
4 （1）	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる	47.6% 全道 53.3 全国 56.2	＊３年　Ｄデータの活用（１）表と棒グラフ ・集計に誤りのある項目を見つけることはできるが、数と言葉を用いて説明することに難しさを感じたと思われる。
4 （2）	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	71.4% 全道 76.4 全国 78.1	＊２年　Ａ数と計算（２）加法、減法 ＊３年　Ａ数と計算（４）除法 Ｃ測定　（２）時刻と時間 ・計算して時間を求めることに難しさを感じている、または、資料を読み取ることがままならない。

【算数の授業改善ポイント】 ※③は昨年度から継続しています。

① 身に付けさせるのは公式とその意味を（１㎠がいくつあるかを求めるためなど）

② 割合につながる乗法・除法の指導を（「１つ分」「１とみる」「もとにする」という基準量を大切に）

③ 思考の言語化を意識した指導（図や式で表したり、理由を記述したりできる力を）

○大野小学校全体の傾向として

①二極化の傾向。　　②問題を理解する力が必要。　　③記述する力が必要。



授業改善で、これらの課題の解決に近づくためには…



こんなことを毎日の授業のどこかで取り入れてみませんか？

○主要４教科の全授業で課題とまとめを記述する。（どの子も見通しをもてる）

○漢字や計算などの習熟では、授業時の他、家庭学習やおおひタイム等で、反復練習の機会を設ける。取得した知識・技能を生活面で活用させることにより、学びの有用性を実感させる。

★上位層も低位層も巻き込んでの話合いを充実させ、主体的・対話的で深い学びにつなげる授業を展開する。

○音読を積極的に取り入れ、読む力の基盤をつくる。

★教科書を読み込むことの大切さを実感させ、資料を読み取る力の向上も図る。

○ふり返りでは課題に対する自分の考えを一人一人が書けるようにする。

★ふり返りの視点・条件をブロックごとに揃えて、記述する力の向上を図る。

○は、「令和８年度全国学力・学習状況調査　結果と検証改善サイクルの確立について」から。

★は、今年度の研修と関連させて取り組めること。